

平成23年度「オホーツクの流氷と自然を守る寄附金」の用途について

平成23年度 寄附金合計（平成24年1月27日現在）

6,989千円

寄附者 560件

皆様からいただいた寄附金は、一旦「オホーツクの流氷と自然を守る基金」に積み立て、ご指定の目的に合った形で、下記の事業に使わせていただきました。

※「オホーツクの流氷と自然を守る寄附金」は、寄附をいただいた翌年度の事業に使わせていただきます。

（平成23年度にいただいた寄附金は、平成24年度の事業に使わせていただきました。）

平成24年度 オホーツクの流氷と自然を守る基金充当事業の内訳

1. アザラシの保護活動などオホーツク海の海洋環境に関する事業（延290名）

事業名	事業費	基金充当額	主な内容
とっかりセンター指定管理経費 「オホーツクとっかりセンター」では、アザラシの飼育、傷ついたアザラシや親からはぐれて保護された幼獣を治療し、野生復帰させる活動を行っており、この施設を運営管理する経費に充当させていただきました。	14,493千円	2,599千円	アザラシ保護活動では、ゴマフアザラシ、ワモンアザラシの新生児を保護しました。ゴマフアザラシの新生児は、とっかりセンターで元気を回復させた後、紋別沖にリリースしました。ワモンアザラシは、現在もアザラシペン（アザラシの病院）の中で貴重な飼育データを集めており、今後の保護活動に役立てていきます。

2. 地球環境の変化などに対応する環境保全啓発活動に関する事業（延193名）

事業名	事業費	基金充当額	主な内容
北方圏国際シンポジウム開催事業 紋別市が昭和61年より毎年開催している「北方圏国際シンポジウム」は、『オホーツク海と流氷』をテーマに国内外の研究者による氷海・海洋研究の発信や情報交換の場として定着しています。この開催経費に充当させていただきました。	5,705千円	1,443千円	H25. 2. 17～H25. 2. 21に開催し、199名の方に参加（内、海外から28名参加）していただきました。 ・学術シンポジウム特別講演：流域国によるアムール川の共同観測クルーズ序報 白岩孝行准教授（北海道大学） ・ワークショップ：林ツツ海・北極域における大気海洋海氷相互作用 ・森から海の連環を考えるシンポジウム ・市民公開講座：オホーツク～ふるさとの海 水産業を取り巻く現状と課題 ・教育シンポジウム：紋別ってすごい「中学生による自然体験学習報告」 ・子どもと親の流氷シンポジウム：南極海、北極海、オホーツク海の自然と生きものたち

3. 森林の適正な育成管理に関する事業（延150名）

事業名	事業費	基金充当額	主な内容
オホーツク魚の市民植樹祭事業 美しい森は、めぐりめぐって人の住む「里」やとっかりの棲む「海」すべてを豊かにします。市民参加の植樹祭を通じて「森里海の連関」を感じてもらい、森林が提供する公益的機能を認識していただき、この開催経費（植樹の苗木、地拵え等）に充当させていただきました。	600千円	600千円	H24. 5. 20開催 17回目の開催となった平成24年度は、232名の方に参加していただき、市有林大山団地に約385本を植樹しました。植樹面積は0.25haとなります。
緑の循環森林認証推進事業 紋別市は、適正な管理が行われていることで認証される「森林認証制度」の普及を進めています。認証された市有林のPRや、民有林の森林認証取得活動事業に充当させていただきました。	4,100千円	465千円	<ul style="list-style-type: none"> ・紋別市全森林面積65,727haのうち認証森林面積は56,377ha、認証率は86%となりました。 ・一般森林所有者の森林認証取得を推進しました。 ・認証材活用住宅を建築し、広く認証材をPRしました。

4. 湖沼、河川の適正な管理に関する事業（延96名）

事業名	事業費	基金充当額	主な内容
公害対策事務経費 紋別市は、オホーツク海に注ぐ渚滑川や、海に隣接するコムケ湖といった水資源が豊富です。大切な水資源を守るため、水質を検査する分析経費に充当させていただきました。	2,210千円	618千円	市内6河川（7地点）で年に2～4回、2湖沼（3地点）で年4回の水質検査分析を行いました。いずれも水質に問題はありませんでした。

5. その他、市長が必要と認める事業（延89名）

事業名	事業費	基金充当額	主な内容
休日夜間急病センター運営管理事業 紋別市では、地域医療体制の確保が喫緊の課題となっています。休日夜間急病センターの運営経費に充当させていただきました。	170,501千円	1,264千円	医師、看護師の確保、医療機材の充実を図り、通年（365日）診療することができました。

お一人で複数の用途の指定がありますので、寄附者数と各事業の寄附者は一致しません。

また、前年度からの繰越や、事業の実施時期の関係から、平成23年度の寄附金総額とは一致しません。